

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 スマート農業普及推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部農政課スマート農業推進室 電話番号：058-272-1111(内 2809)

E-mail： c11411@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,068千円(前年度予算額：11,000千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	11,000	4,044	0	0	0	0	0	0	6,956
要求額	10,068	4,504	0	0	0	0	0	0	5,564
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

高齢化の進行などによる担い手不足や労働力不足が深刻となっており、これまで以上に作業の省力化・効率化、軽労化・技術の平準化等が課題となっている。

そのため、ICTやロボット技術、AI等を活用して、これらの課題解決につながるスマート農業技術の導入・普及が必要となっている。

(2) 事業内容

- スマート農業推進協議会の運営(573千円)
 - ・スマート農業推進計画の推進状況確認、推進方針の発展に向けた協議、県内各地域でのスマート農業の普及推進等を行う協議会を開催する。
- スマート農業推進員研修及びスマート農業推進拠点を活用したスマート農業技術研修の実施(2,237千円)
 - ・スマート農業技術の専門知識を持った人材の育成を目指した技術研修を実施する。
 - ・農業者を対象とした、品目及び作業時期ごとのスマート農業技術を活用した作業負担の軽労化、技術の平準化方法等を学ぶ研修を実施する。
 - ・地域のニーズに応じたスマート農業技術を学べるよう、農業技術センターや中山間農業研究所等において研修を実施する。
- 最新機器・機械の展示・実演会及び推進セミナーの開催(3,914千円)

- ・スマート農業のメリット・効果等を知り、技術を学ぶための、最新機器・機械等の展示・実演会を開催するとともに、導入に向けた意識づけ、動機づけを行うセミナーを開催する。
- 地域に根ざしたスマート農業推進研修会及び展示・実演会の開催(2,368千円)
 - ・JA単位など地域ごとに、地理的条件や品目に応じた研修会及び展示・実演会を開催する。
- 全国の取組事例調査、展示会への参加等(891千円)
 - ・スマート農業に取り組んでいる全国の先進ほ場や、国内各所で開催される最新機器等の展示会及び実演会を視察し、消費者のニーズや時代に合った技術を調査する。
- スマート農業実践者のネットワークの強化(85千円)
 - ・スマート農業実践者の経営発展・改善が加速化するように、技術の情報共有、データの活用方法の最適化を図るため、ネットワークを強化する。

(3) 県負担・補助率の考え方

スマート農業技術の導入による経営規模の拡大、多収・高品質生産は、県農業を維持・発展するために必要であり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	493	スマート農業推進協議会有識者、技術研修講師
旅費	883	全国の先進事例、セミナー、展示会・実演会の視察等
需用費	419	資料作成、機械燃料費等
役務費	114	文書発送、イベント保険料等
業務委託料	8,068	スマート農業推進セミナー、展示・実演会 地域に根ざしたスマート農業推進研修会 等の実施
使用料	91	スマート農業推進協議会・実践者ネットワーク会議室使用料
合計	10,068	

--	--	--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置付け

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略(2019～2023年度)
 - Ⅱ-3-(3)-② 「未来につながる農業づくり」の推進
- ・ぎふ農業・農村基本計画(2015～2020年度)
 - 第5章 3つの基本方針に基づく具体的な取り組み

- ・岐阜県スマート農業推進計画（2019～2023年度）

（2）後年度の財政負担

- ・2018年度に、今後5年間の岐阜県スマート農業推進計画を策定したため、次年度以降も継続した支援が必要。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 スマート農業技術の導入・普及により、作業の省力化・効率化、軽労化・技術の平準化等を図り、農業経営の大規模化や高品質生産を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
スマート農業技術導入経営体数	168 (H30)	/	/	238 (R1)	550 (R5)	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

ドローン活用研修会	22名
リモコン式草刈機活用研修会	15名
環境モニタリング機器活用研修会	27名
スマート農業専門員養成研修（スマート農業技術研修）	30名
スマート農業推進員養成研修（スマート農業技術研修）	19名
（10月以降の予定）	
技術研修会 8回	セミナー展示実演会 7回

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 農業者等が、スマート農業技術の最新情報、機器・機械を学び、体験したことによる、当該技術を導入する意識づけ。
 農業者を直接指導する農業普及課職員及びJA営農指導員が、スマート農業技術の基礎知識を身に付けたことによる、相談体制の整備。
 スマート農業の推進・普及が加速化し、農業経営の発展・改善が見込まれる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	スマート農業技術の導入・普及が進むことで、農業経営規模の拡大や高品質生産が進むことから、事業の必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	生産者、就農研修生、JA職員、県普及指導員等が、スマート農業技術を学び、体験したことで、当該技術を導入する意識づけ、体制の整備を図ることができ、農業者の経営発展・改善が加速化することが期待できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	農業者が、スマート農業技術を学び・体験できる場及び県又はJA等に当該技術を相談できる体制整備に必要な場を設けるなど、効率化を図っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 スマート農業技術の導入・普及を促進するためには、農業者の当該技術の理解促進を図る必要である。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか スマート農業技術は、毎年進歩しており、県農業の抱える課題解決のために、スマート農業が大きな役割を担っていることから、今後も継続して、スマート農業技術の県内への導入・普及を図っていく必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	岐阜県農業フェスティバル 【農産物流通課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	集客数18万人と県内最大規模の農業イベントであり、岐阜県のスマート農業をPRする場として適している。 来場者の中には、農業者のみならず、未就農者もおり、スマート農業技術を活用し、就農を目指す者の動機づけを図ることが期待できる。